

9月が間近になって
 スーパーはまさに「フ
 ルーツ天国」。モモ、
 メロン、ナシ、イチジ
 ク、ベリー類といった
 果物が競い合って甘い
 香りを放ち、消費者を
 誘惑する▼ワイワイと
 にぎやかそつなのがブ
 ドウ。昔ながらの赤紫
 の小粒から、黒紫や緑
 色の大粒まで顔ぶ
 れは多彩である。
 ▲葡萄食ふ一語一
 語の如くにて▼中
 村草田男▼つる性
 本本のブドウは中
 東や地中海沿岸の
 原産で聖書でもおなじ
 み。洪水を生き延びた
 ノアはブドウを栽培し
 ワインを醸造したが、
 飲み過ぎて醜態を演じ
 たらしい▼また「ブド
 ウの木とイチジクの木
 の下に住むことは、幸
 福、平和、豊かさの象
 徴」と祝福された。日
 本では有島武郎が大正

越山若水

2017.8.29

時代に書いた短編「一
 房の葡萄」で、道徳心
 を教示する素材として
 登場する▼西洋人町の
 小学校に通う男の子。
 風景画を描いていたと
 き、同級生のジムが持
 っていた美しい絵の具
 を2色盗んでしまう。
 でもすぐに気付かれ、
 西洋人の女先生に呼ば
 れた▼ただ彼女は
 全くしからず、一
 房のブドウを少年
 の手に載せ授業に
 向かった。戻って
 来ると「あすは何
 があっても学校に
 来なさい」と言って家
 に帰した▼次の日、少
 年が学校の門をくぐる
 と、ジムが握手を求め
 てきた。先生は2人に
 一房のブドウを半分
 切って与えたという。
 甘く小さな粒が集合す
 るブドウ。先生の優し
 さと分かち合いの心が
 最良の教材となった。